

第10回  
**千葉県建築文化賞**  
表彰作品集

2003年

主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

第10回千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞はすぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設いたしました。

本年は79点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞5点及び建築文化奨励賞4点を決定いたしました。

受賞作品は、軽く浮いた大屋根が施設全体を覆い里山の景観と調和する交流施設、「通って、泊まれて、住む」ことができるもう一つのわが家となる高齢者介護施設、高層住宅群の中にあつて木の素材を活かし柔らかさを感じられるコミュニティー施設、地元の木材を使い明治初期の母屋、長屋門等を復元し自然景観と調和した民家など、いずれも2003年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

受賞された皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県としましても、引き続き600万県民の一人ひとりが快適で充実した生活を送ることができる環境の整備に努め、個性豊かな質の高い文化が創造できる千葉県を、県民の皆様と一緒につくっていきたくと思っています。

結びに、受賞された皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員や、共催団体など、関係の皆様のお協力に深く感謝申し上げます。

平成16年 3月

目次	千葉県建築文化賞について … 1	選考経過と総評 … 2
	栄町総合交流拠点 ドラムの里 … 3	本埜ファミリア館 … 4
	旧 水田家住宅 … 5	小規模高齢者複合施設 じゅらく … 6
	高齢者福祉施設 杜の家 … 7	市川の家 … 8
		京成ホテル・ミラマーレ … 8
	鎌ヶ谷市東部学習センター … 9	応募〔推薦〕建築物一覧 … 10
	君津市立中央図書館・ 君津市地域情報センター … 9	建築文化賞選考委員会 … 10

# 応募79点から9点入賞(選考経過と総評)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

## (選考経過)

第10回千葉県建築文化賞は平成15年7月の委員会で募集要領を定め、8月初旬から9月末まで応募を受け付け、総数79点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)きびしい社会経済情勢がつづく中、前回は8点上回る作品をお寄せいただいた関係者の熱意に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門6点、高齢者・障害者部門4点、環境部門3点を選んだ。次いで11月下旬と12月上旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は平成16年1月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞5点、建築文化奨励賞4点を表彰候補

作品として決定した。

なお、千葉県建築文化賞選考委員会は10頁の名簿にある8名の委員によって構成されている。そのうち6名の学識経験委員は、建築、都市計画、工業デザイン、福祉分野の専門家であり、大学教員の職にある者を含めて全員が何らかのかたちで設計や計画の仕事に携わっている。このため、委員と関わりのある建築物が応募・推薦される場合がある。これに対し、選考委員会では選考の公明性を保つために次のような対応をとっている。まず、委員は関係のある建築物については意見を述べず、票を投じない。そして、委員と関係のある建築物が投票上位を占めた場合は、そのことを再確認したうえで表彰候補作品を決定する。今回の選考もこの手順を踏んで行われた。

(3部門の対象)	(選考の過程)	応募点数	(1選考) 現地調査	(受賞作品選定)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		51	6	3	2
高齢者・障害者等に配慮した建築物		14	4	2	1
環境に配慮した建築物		14	3	—	1
(合計)		79	13	5	4

## (総 評)

### 景観に配慮した建築物

応募51点は、用途、規模、立地など幅広いが、いずれも景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであった。

「栄町総合交流拠点 ドラムの里」は、全体を覆う軽やかな大屋根に特徴があり、房総風土記の丘の松林に溶け込む透過性の高い空間処理が共感を呼んだ。「本埜ファミリア館」は、ニュータウンに建つコミュニティ施設であり、木造黒壁の美しいプロポーションが周囲の景観をひきしめている。「旧 水田家住宅」は、明治初期の酪農家の母屋と長屋門を復元再生したものであり、新設された管理棟とともに、周囲の自然景観とみごとな調和を醸している。また、この建築物は建築文

化の継承という点でも貴重である。この結果、3点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「市川の家」は閉鎖性が強すぎる気味があるが、シャープで質の高いデザインを実現しており、「京成ホテル・ミラマーレ」は、地盤沈下のつづく中心市街地に新しいランドマークを生み出した点が評価された。

### 高齢者・障害者等に配慮した建築物

この部門への応募は14点と、前回は4点上回った。数は多くないが、今回も高齢者・障害者への配慮と建築的な質の高さを両立させている作品が見られた。

「じゆらく」は、デイサービスを併設した小規模なグループホームであり、明るく温かい“住まい”となり得ている点が高く評価された。「高齢者福祉施設 杜の家」はユニットケアを採用し、ユニットの中心

にキッチン付食堂を配した構成をとっており、中庭から流れ込む穏やかな光の中でくつろぐお年寄りの姿が印象的であった。この結果、2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「鎌ヶ谷市東部学習センター」は、細長い敷地に合わせて2つの中庭を設け、誰にでも利用しやすいゆりのある施設を実現した点が評価された。

### 環境に配慮した建築物

この部門の応募は前回と同じ14点であった。高齢者・障害者の部と同様、環境への配慮が普及し、特別ではなくなってきたのを感じたが、残念ながら今回は建築文化賞の該当なしとした。

奨励賞の「君津市立中央図書館・地域情報センター」は、大空間の吹抜開架室が快適で利用しやすく、省エネ上も効果的な点が評価された。

## 選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成10年4月1日から平成15年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
  - ①地域の特性や周囲の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
  - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいそいそと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
  - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。